様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月 20 日現在

機関番号：34205
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012（2011 年度は産休のため中断）
課題番号：22700603
研究課題名（和文）　初年次教育としてのフレッシュマンキャンプが大学生活へ与える影響

研究課題名（英文）　The influence of the freshman orientation programs as the first-year experience at college on students' college life

研究代表者
林　綾子　（Ayako Hayashi）
びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・准教授
研究者番号：10454464

研究成果の概要（和文）：
2010 年度入学生に対してフレッシュマンキャンプ前、後、6 か月後、2 年後と調査をおこなった。主な結果としては、大学適応の主要な要素ととらえた Social Provision（社会的被支援）がキャンプを通して獲得され、それが半年後、2 年後にも維持されていた。また、半年後では SP が主要な大学適応の要素であることが確認されたが、2 年後では SP 以外にも成績や健康など他にもさまざまな要素が大学適応にとっては重要となっていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
Development of social provision through outdoor orientation program was measured for students who entered a college in 2010 before and after the program, 6 months and 2 years later. The SP was gained through the program and it was maintained at 6 month and 2 years later. It was the major indication of school adjustment at 6 month, but 2 years later, more indications became more important for example academic achievement and health.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2010 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2012 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学
キーワード：野外教育

## １．研究開始当初の背景

所属機関においては、2003 年度の開学以来、新入生全員に３つの野外スポーツ実習を初年次教育として行うという特色的カリキュラムを展開しており、その効果については教員・学生共に実感している。卒業論文や教

員による短期的な調査研究は行われているが、長期的な研究や、実際の大学適応との関連については研究が行われていない。よって、今後のより効果的な展開を目指すうえでの研究の必要性を感じ、研究実施に至った。

２．研究の目的

初年次教育としてのフレッシュマンキャンプの効果として Social Provision (SP)（社会的被支援）の変化を長期的に調査し、さらに SP やその他関連すると思われる要因（成績や、友人関係、個人の目標や県境状態など）と大学適応との関連性を明らかにすること。結果については、より効果的な初年次教育プログラムの実施や他カリキュラムとの連携の検討、さらにＳＰや野外教育に関する理論構築の一助となることを期待している。

３．研究の方法

2007 年度に開始した本研究の予備調査結果をもとに、準実験デザインを用い（ウエイティングコントロール)、フレッシュマンキャンプの前後、6 か月後、2 年後と 2 か年計画で調査を行った。フレッシュマンキャンプは本学学生全員受講することから、通常の実験デザインを用いることができず、期間をずらして行われる２つのグループを比較検討することとした。

また、ＳＰの変化だけでなく、半年後と 2 年後においては、大学適応との関連性を調査し、その関係については、他の要因と比較を行った。

調査実施に先駆け、先行研究や予備調査の結果を参考に日本語版ＳＰ尺度を作成し、検討を重ねた。更なる検討の必要性も感じられたため、他大学にてのデータ収集も行い、尺度の妥当性・信頼性の検討、確立を図った。

４．研究成果

大学適応へ有効であると思われる Social Provision（社会的被支援）をフレッシュマンキャンプ前後、半年後、2 年後と変化を追った（図１)。

フレッシュマンキャンプは新入生全員を対象としているため、後半で行うグループを統制群とし、準実験法の一つである waiting list control 法を用いた。グループ A がキャンプ後にグループ B より有意に高く、またその向上が半年後、2 年後にも維持されていた。フレッシュマンキャンプによる SP の向上、またその長期的な維持が明らかとなった。

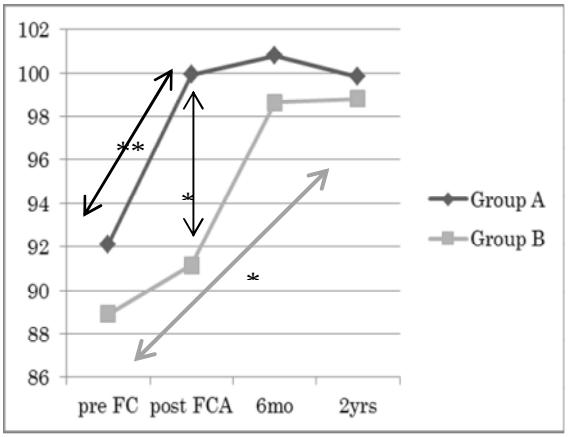


図１．ＳＰの変化

次に、大学適応(SA)の４つの因子（意心地の良さ因子、課題や目的の明確さ因子、被信頼因子、劣等感の無さの因子）を従属変数とし、ＳＰや成績、友人関係における悩み、夢や目的の明確さ、健康状態が要因としてどのようにかかわっているか、重回帰分析を行った。

半年後においては、大学適応にとって SP が最も重要な要因であることがわかったが、2 年後については、有意な正の相関はみられるものの、他の要因、成績や健康などがより重要な要因であることが明らかになった。SP は 2 年後においても大学適応にとって重要ではあるが、より多くの要因の重要性が高まる

ことが明らかとなった（表１，２）。

初年次教育自体の効果は証明されたが、よりその効果を大学適応へ活かすためには、初年次教育に留まらず、2 年目以降に勉強や健康面でのサポートや、さらなる友人関係構築機会の提供、キャリアデザイン教育などの必要性が示唆された。

| 6M later | Comfort β | Task & Purpose β | acceptance β | No inferiority β |
|---|---|---|---|---|
| SP6M | .62*** | .56*** | .49*** | .39*** |
| Academic | .06 | .03 | .07 | .03 |
| Friends | -.24*** | -.07 | -.20*** | -.33*** |
| Goal | .14** | .33*** | .18** | -.02 |
| Health | -.05 | .02 | .025 | .04 |
| $R^2$ | .57*** | .50*** | .43*** | .35*** |

表 1．重回帰分析結果（半年後）

| 2Y later | Comfort β | Task & Purpose B | acceptance β | No inferiority β |
|---|---|---|---|---|
| SP2Y | - .01 | - .03 | .01 | .03 |
| Academic | .24*** | .15** | .14* | .25*** |
| Friends | -.51*** | -.24*** | -.34*** | -.34*** |
| Goal | .053 | .37*** | .24*** | .03 |
| Health | .25*** | .22*** | .20** | .25*** |
| $R^2$ | .45*** | .35*** | .31*** | .30*** |

表２．重回帰分析結果（2 年後）

尺度の信頼性・妥当性の検討、確立については、他大学でのデータを集計終了したが、分析途中である。海外の尺度の翻訳であったため、文化的背景などへの配慮の必要性も感じられ、汎用を目指すための更なる検討が必要である。11 月にアメリカの国際学会にて発表する時までに、尺度構成についてより分析を進め、発表に取り込む予定である。

さらに、今後の予定として、2012 年度入学生に対しては修正を加えたＳＰ尺度を用いており、修正前のデータとの比較、また２年後データの収集を行う予定である。そして、実際に大学適応に重要と思われるＳＰについては、インタビューなどの質的アプローチも取り入れながら、詳細を明らかにするとともに、初年次教育カリキュラムに対する提言も行っていきたい。本研究結果の理論的そして実践的活用を図っていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件予定）

SP 変化と大学適応について、投稿予定。

投稿先については、日本野外教育研究、あるいは海外の野外教育・体験教育関連の学術団体の学会誌を検討中。

尺度作成について、投稿予定。

教育心理学会など、教育心理や心理測定系の学術雑誌に投稿予定。

〔学会発表〕（計 2 件予定）

①Development of social provision through an outdoor orientation program and its contribution to school adjustment, 2nd International Research Forum at the 16th Annual conference of Outdoor Education Society, June 22-23, 2013, Kyoto University of Education, Japan.

本研究結果の概要を国内にて行われる国際学会にて英語での口頭発表を行う。

②Effects of a college outdoor orientation program and its contribution to school adjustment, Symposium of Experiential Education Research at the International conference of Association for Experiential Education, November, 2013, Denver, CO, USA(受理済み、発表予定).

野外教育のもととなっている体験教育の最

も古く、権威ある学会であるAssociation for Experiential Educationの主催する国際学会内のシンポジウムでの発表を受理され、渡米し発表予定。

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
林　綾子（AYAKO HAYASHI）
びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・准教授
研究者番号：10454464

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：